

令和2年度 晴海中学校 外部評価報告書

評価委員：小田幸雄委員長、山口啓朗副委員長、委員

報告書作成者：小田幸雄委員

評価時期 令和3年3月

1 重点目標の評価について

<重点目標1>

- ・感染症予防策を講じながら、生徒の健やかな学びのために、日々ご尽力されているものと拝察致します。今後とも、長期間にわたり学校内の感染防止対策を講じながら、生徒の健やかな学びの保障との両立を図って頂きたいと思います。
- ・各先生方の授業の進め方や伝え方を工夫されていることが、生徒の授業態度を見て感じました。これからも生徒が意欲を持って勉学に取り組めればと思います。
- ・生徒たちの授業風景を拝察する機会がありました。コロナ禍の制約の中で工夫して授業運営されている様子が見て取れました。学習サポートテストの理科の達成度が今ひとつだったのが残念です。今後の改善に期待します。

<重点目標2>

- ・生徒アンケートの中に、「先生は生徒に公平に接しているか」という質問に対して85,89%という高い結果が現れているのを拝察しました。生徒からこのような回答が出ることは素晴らしいことであると感じました。
- ・コロナの影響もあり学年間の関係性も弱まらざるを得ない状態となってしまったことは、「学校」あるいは「学年」という枠に閉じていくことにつながりかねないと少し心配していました。しかし、生徒たちが、総じて皆明るく活動的に映ることに安心を覚えております。

2 今後の改善に向けた意見

- ・学習意欲を高めるためICTを駆使した新しい学びの方法の検討と実践をよろしくお願いします。
- ・アンケートの結果が低い項目についてのフォローは、引き続きより良い改善を目指し、取組を進めていってください。
- ・検定取得を中期的な目標に掲げることは、学力の定着に一定の効果を与えていると考えられます。理科（や相対的には社会も）の定着率が低いことは、予習と復習の目的が伝わっていないことが可能性として考えられます。網羅的な予習・復習は、授業内容以上の深掘りが難しく、内容への興味や自ら学ぶことの面白みにつながりにくいと考えられます。特に復習は、授業内容のトレースとならないよう、教師が特に学んでほしいポイントにしぼり、関連資料を提示する、またその反復練習など考えると良いと思います。

3 その他の意見

- ・今年度は前代未聞の過酷な環境の中で、先生方のご尽力には大変感謝しております。中学校ということで安全安心と学力向上の両方を追求することはなかなか難しいですが、今後 I C Tを活用して先生方の負担軽減・学習サポート力向上などに期待したいと思います。
- ・休校期間の「時間割」「課題」「オンラインの学び」など継続的な学びを与えてくださったことは大変素晴らしいことでした。また、活動が限定される中で、少しでも多くの経験、活動の機会を生徒たちに与えようとしてご尽力いただいたことに感謝します。
- ・学習の遅れについては、個々の生に寄り添った対応をよろしくお願いします。

* 3月に各学校のホームページで公表していきます。